
縁日

桜色紅葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

縁日

【Z-ONE】

Z5526M

【作者名】

桜色紅葉

【あらすじ】

彼女と出掛けた縁日で……僕は……

境内に響き渡る祭囃子の音が少し遠くに聞こえる所にあつた石段に座り込んで、一緒に買つた焼きそばを食べ、冷え冷えラムネを飲んでいた時僕はそつと告げた。

「あのれ……榎本のことずっと好きだったんだ」

そう言うと彼女は少し俯き困った顔をする。

でも正直心の中では彼女がどんな反応をするかなんて想像はしていた。

だって君には僕じゃない好きな人がいることをとっくに知ってるから。

それでもこの沈黙の空気が嫌でラムネの瓶を口に含もうとした時、

「ごめん。…私好きな人いるからさ。だから…」

とたどたどしく彼女は言った。

僕は彼女の言葉を遮りて口を開く。

「うふ、分かった。今日は誘い乗つてくれてありがとう」

「うふふ、私も楽しかったよ」

ああなんて残酷なんだろう。

彼女は今みたいな笑顔をいつも僕に向けてくれてたのに、夏休みが空ければもうあまりそれを見ることもなくなるだろう。
その不安が胸を満たしチクチクと僕を傷つける。

僕は空を見上げ、残りのラムネを飲み干した。
雲一つない空は点々とした星たちに彩られていて、喉には炭酸がしゅわしゅわと爽やかに広がつていった。

それから少ない会話をしつつ彼女を家まで送った。
そして一人夜道を歩きながら静かに涙を流した。

そんな高一の夏休み。

(後書き)

はーいー…やつちまこました（笑）

設定的には中学から仲の良い一人で”僕”はある田”彼女”への思
いに気づき自分の思いを告げるためこの縁日に誘い…ああーあみた
いな（笑）

でもなんか短編のくせに文まとまらなかつたよ。orz

評価や感想を頂けるととても喜ぶのでして頂ければ幸いです（^ ^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5526m/>

縁日

2010年10月20日02時33分発行